

令和3年度 学校自己評価計画の最終報告書

石川県立金沢西高等学校

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度 判断基準	集計結果 ( )内は前期	分析(成果と課題)及び次年度の扱い(改善策等)
1 GIGAスクール構想推進を踏まえ、ICTの効果的な活用や主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に努め、生徒の主体的な学びおよび確かな学力の育成を図り、進路実現につなげる。	① 研究授業、相互参観授業を通して授業改善を図り、探究的な学習活動や質の高いグループ活動を取り入れた授業を実施する。	効果的なICTの活用など工夫された授業が行われている項目においてA評価が A 60%以上 B 55%以上 C 50%以上 D 50%未満 授業を通じて学力がついてきているという肯定的評価が A 85%以上 B 80%以上 C 75%以上 D 75%未満	生徒による後期授業評価アンケートでA評価 58.0% (52.7%) →評価【B】(C) 生徒による後期授業評価アンケートで肯定的評価 84.2% (81.8%) →評価【B】(B)	今年度より、授業において生徒がChrome bookを利用できるようになり、ICTの活用が進んだため、A評価の割合が前期に比べ増加した。来年度は、さらに効果的なChrome bookの活用を推進し、質の高い授業を実施していく。 前年度に比べ、肯定的な評価が約6% (前年78%) 上昇し、評価Aに近づいた。コロナ禍においてもできる質の高いグループ活動および探究的な学習活動を実施し、生徒の自己肯定感を高め、確かな学力の育成を図り、生徒の進路実現につなげたい。
	② 「総合的な探究の時間(西高SDGsプロジェクト)」の活動を通して、主体的・探究的・協働的に学び活動する態度を養う。	生徒アンケートで「主体的・探究的・協働的に取り組んだ」とする肯定的評価が A 95%以上 B 90%以上 C 85%以上 D 85%未満	年度末の振り返りの時間(3月)にアンケートを実施して評価 1年 92.7% 評価【B】 2年 93.0% 評価【B】 全体 92.8% 総合評価【B】	1, 2年ともに肯定的評価の数値が目標圏内にきているが、評価項目Bの回答がAよりも多いので、次年度はA項目を選んでくれるよう、生徒がより達成感を得られるような仕掛けを検討する必要がある。
	③ 家庭学習時間量調査を実施して現状を把握・分析し、指導することで進路実現に向けた学習時間の確保を促す。	家庭学習時間が「学年+1時間」に達している生徒の割合が A 40%以上 B 30%以上 C 20%以上 D 20%未満	家庭学習時間量調査 4~12月平均 注: 3年は4~9月平均 →評価 1年 18.3%【D】(20.2%【C】) 2年 10.8%【D】(9.5%【D】) 3年 10.8%【D】(7.9%【D】) 全体 13.5%【D】(12.5%【D】)	家庭学習時間が「学年+1時間」に達している生徒の割合は、前年に比べ2年生がわずかに改善したが、評価は全年Dであった。来年度から始まる観点別学習状況の評価を通して、生徒が自らの学びを振り返る機会を増やし、これまで以上に生徒の主体的な学習を促していく。
	④ 校外模試のデータを教科と学年が連携をとって分析し、方策を検討することで、学力向上に結び付ける	1, 2年1月の校外模試3教科型偏差値52以上の生徒の受験者全体に対する割合が A 35%以上 B 30%以上 C 25%以上 D 25%未満 ※1・2年別に達成度を判断する 3年10月の校外記述模試平均偏差値50以上の生徒の受験者全体に対する割合が A 30%以上 B 20%以上 C 15%以上 D 15%未満 3年11月の共通テスト模試総合偏差値52以上の生徒の受験者全体に対する割合が A 30%以上 B 20%以上 C 10%以上 D 10%未満	1, 2年1月の校外模試3教科型偏差値52以上の生徒 1年 131名・48.5% (93名・33.6%) →評価【A】(B) 2年 89名・32.7% (94名・35.3%) →評価【B】(A) 3年10月の校外模試平均偏差値50以上の生徒 46名・26.3% (6月 54名・20.1%) →評価【B】(B) 3年11月の共通テスト模試総合偏差値52以上の生徒 42名・15.5% (7月 87名・33.2%) →評価【C】(A)	1年は昨年度より約10%増加、2年はほぼ昨年並みで比較的良好な結果であった。しかし、今年度難化した共通テスト対応できるような思考力、判断力、表現力はまだ十分に身につけていない。共通テストの出題内容や模試の結果を分析し、授業、定期試験に反映させていく必要がある。 模試ごとに各教科で分析し対策をとっているが、3年において成績を維持、向上させることが年々難しくなっている。補習を習熟度別にしたり、個別添削の開始を早めるなど工夫をしたが、3年11月の共通テスト模試は評価Cとなった。今年度の取組を検証し、改善するとともに、進路行事、探究活動を通しての進路意識など、低学年からの指導にも力を入れていく。
	⑤ 進路学習・探究活動を充実させることで、高い進路目標を持たせ、最後まで目標実現のため努力を継続させる指導を行う。	①難関国立大学、金沢大学に5名以上合格 ②北信越地区の国立大学に20名以上合格 ③北信越地区の公立大学に30名以上合格 A 3項目クリア B 2項目クリア C 1項目クリア D クリアなし	①11人(金沢10、東京工業大1) ②40人(金沢10、富山24、新潟1、福井5) ③52人(石川県立11、石川県立看護10など) → 総合評価【A】	共通テストが難化し、国立大学出願数確保が厳しくなったが、最後まであきらめずに頑張る生徒が多く、好結果に結び付いた。学校推薦型選抜や総合型選抜において探究活動を活かして合格した生徒が見られた。引き続き「何を学びたいか」を大切に指導していきたい。
学校関係者評価委員会の評価	生徒自身に時間の使い方の中で、スマホの利用しすぎに気付かせること、学習する目的を持たせることが大切である。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策	生徒に「1日の時間の使い方」を記録させ、振り返らせる。生徒がスマホ依存のマイナス面を自覚し、進路目標・学習する目的を見出すことができる取組を行う。			
2 組織的な教育活動を通して、生徒の規範意識を高め、将来の主権者としての自覚を促し、自立した社会人たる判断力・行動力を養う。	① 挨拶運動を通して生徒会執行部と協力し合い、学校全体の活性化を図る。自ら発する伝わる挨拶を実践し、社会人として必要なコミュニケーション能力を養う。	令和3年度生徒アンケートから、いろいろな人から発して伝わる挨拶ができたが A 95%以上 B 90%以上 C 85%以上 D 85%未満	生徒による後期学校評価アンケートで肯定的評価 87.1% (84.6%) →評価【C】(C)	挨拶実施に関する生徒アンケートでは、87%を超える肯定的な回答があった。しかし高い目標を掲げたことで評価はCである。実際、朝等の挨拶状況の分析からは、それほど定着していると判断できない。全校集会等で生徒に伝わる挨拶のデモンストレーション実施を検討している。
	② 様々な交通安全指導から、自転車乗車マナーの向上を意識し、交通社会の一員としてルールの遵守、安全への配慮等、事故防止に向けた注意力、判断力を身に付けさせる。	自転車乗車違反件数が、年度末累計で A 10件未満 B 15件以下 C 20件以下 D 21件以上	石川県警察本部交通違反指導状況データより 4~12月集計 (4~7月集計) 14件 (12件) →評価【B】(B)	6月に11件の街頭指導を受けて以来、指導件数はそれほど上昇していない。自転車乗車に対するルール遵守の精神はかなり定着したと考える。しかし、交通事故件数はこれまでで10件で脇見防止等を含めた安全運転を徹底させたい。
	③ いじめは絶対に許されない行為であることを周知し、他者の心情を配慮できる思いやりの心を醸成する。また、未然防止に取り組みながら、居心地の良い学校づくりに努めていく。	互いを尊重できる居心地の良い学校であるかのアンケートから、肯定的評価が A 95%以上 B 90%以上 C 85%以上 D 85%未満	生徒による後期学校評価アンケートで肯定的評価 90% (90%) →評価【B】(B)	今年度は6月にいじめ案件を1件確認し、関わった生徒を指導した。それ以降は各学年とも落ち着いた雰囲気での学校生活が見受けられる。アンケート結果において、90%超の肯定意見が結果として出たが、引き続き生徒達にとって居

					心地の良い学校づくりを推進していく。	
	④	自己管理能力を高めるために、自らの健康問題にしっかりと向き合う態度を養う。	歯科の受診率が A 70%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満	年度末の実績で評価 1月末現在の受診率 71.6% →評価【A】	歯科の受診率71.6%と評価Aに達成することができた。次年度以降は保健だより等で生徒に歯科の早期治療の意味を伝え、早期治療や受診率の向上にもつなげたい。	
学校関係者評価委員会の評価		生徒は挨拶をする意識はあるが、自ら積極的にできていない。大人が根気よく挨拶すること、生徒が挨拶の意味を理解するために、挨拶について議論することが有効である。				
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策		生徒が挨拶の意味について議論する機会を設ける。挨拶に関するセミナーや挨拶運動を校地以外で行い、挨拶を交わすことの良さを実感させる。				
3	文武両道の実践のもと、部活動の効率的な活動と更なる活性化を図り、心身の錬磨を通して、人間力を高めチャレンジ精神を培う。	①	運動部・文化部ともに挨拶などの規範意識の醸成を図りながら活動内容を充実させる。	充実感や達成感を感じられる部活動が行えているかの肯定的評価が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	生徒による後期学校評価アンケートで肯定的評価 86.9% (92.7%) →評価【A】 (A)	3年生が引退し前期より評価が下がったが、1年生中心に部活動から得られる充実感、達成感はアンケートでも肯定的であった。2年から3年になる最上級生に対しては、最後の公式戦まで辞めず、粘り強く取り組むことの大切さを説き、励ましの声かけを心掛け、教職員全体で応援し、そのチャレンジする姿をバックアップしていきたい。
		②	運動部・文化部ともに計画的かつ効率のよい練習を行い、好成績につなげる。	(運動部) 県高校総体総合成績が A 10位以内 B 20位以内 C 30位以内 D 31位以下  (文化部) 各種大会・コンクールにおける年間の獲得賞状枚数が A 20枚以上 B 15枚以上 C 10枚以上 D 10枚未満	年度末の実績で評価 中間報告 (運動部) 県高校総体総合成績 総合20位 (R2:中止, R元:20位) →評価【B】 (R2:評価なし, R元:B) 男子24位 (R元:33位) 女子12位 (R元:11位)  (文化部) 年間の獲得賞状枚数 27枚 (R元:15枚, R2:10枚) →評価【A】 (R元:B, R2:C)	県高校総体総合成績は男子が24位とジャンプアップ、女子は12位と一昨年度と同等で総合20位と令和元年度と同じであった。男子の成績が向上しても総合成績はあまり上がらない状況から、上位校とはかなり差があり、男子は20位以降の学校とはほとんど差がないことが伺える。各部ともベスト8を達成できるよう活動目標を明確にし、力を注いでいただきたい。 文化部及び各種コンクール等における活躍は、国語科の授業における取組の効果もあり、積極的な読書感想文コンクール、各種俳句大会等への参加により27枚の賞状を獲得できた。例年の2倍近い成果を達成できたことは素晴らしい、各大会等を広く生徒に提示して来年以降も継続して挑戦して行って欲しい。
学校関係者評価委員会の評価		部活動の教育効果は大きい。教員の負担軽減のため外部指導者の活用があるが、主導者は教員であることが望ましい。部活動以外の業務改善も図ることによって、部活動指導に組みやすくなる。				
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策		本校の教育目標の了解を前提に、部活動指導員等の外部指導者の積極的活用を推進する。効率的・効果的な練習方法等を常に探究し、部活動以外の業務改善も図る。				
4	ボランティア等の諸活動や情報の発信を通して、保護者、地域との連携を密にし、信頼される学校づくりを行う。	①	学校教育活動について、ホームページやメール配信、学年通信等による積極的な配信に努め、保護者や地域の方の一層の理解・協力を得る。	学校の情報提供は十分に行われているという保護者が A 90%以上 B 85%以上 C 80%以上 D 80%未満  教育ウィーク、進路説明会等での保護者の来校のべ人数が A 800名以上 B 600名以上 C 400名以上 D 400名未満	保護者による後期学校評価アンケートで肯定的評価 92.4% (92.1%) →評価【A】 (A)  保護者の来校のべ人数 525名 (536名) →評価【C】	十分な感染対策を行いながら可能な限り実施してきた教育活動の内容をホームページ、学年便り、メール配信等により情報提供した結果、高い評価をいただいた。次年度も積極的に情報を提供していきたい。 保護者の来校のべ人数 525名 (内訳) ・PTA総会、3年進路説明会 (コロナ禍で中止) ・1年進路説明会 214名 ・西高祭 145名 ・2年進学講演会 (オンライン開催) ・教育ウィーク 166名
		②	各分掌や各学年、各教科と連携し、生徒の読書活動を促進する。	図書館の貸出冊数生徒1人あたり1月末まで A 4冊以上 B 3冊以上 C 2冊以上 D 2冊未満	生徒1人あたり1月末までの貸出冊数 3.6冊 (4~12月集計2.5冊) →評価【B】 (C)	課としての取組に加え、学年や教科との連携もあり、昨年(3.5冊)とほぼ同じ成果を残せた。平均値はまずまずだが、個人の貸出冊数に差がある点を課題としていく。
		③	学年・委員会・部活動による地域貢献や学校行事のサポートを行い、ボランティアへの関心を高める。	ボランティア活動に参加した学年・委員・部活動が A 5つ以上 B 3つ以上 C 2つ以上 D 1つ以下	年度末の実績で評価 8つ 金沢マラソンボランティアにボランティア委員・男子バドミントン部・女子バドミントン部・フェンシング部・放送部・家庭部・ダンス同好会が参加 万引き防止キャンペーンに生徒会執行部が参加 →評価【A】	コロナ禍ではありましたが、2年ぶりの金沢マラソンが実施され、そこへ本校の7部活がボランティアとして参加できたことは大変良かった。また、年末には金沢西警察署からの依頼を受け、金沢アピタベイ「ドン・キホーテ」さん前で万引き防止キャンペーンのチラシ配りに参加した生徒会執行部7名もいて、徐々に活動が活発化し以前の教育活動に戻りつつあると実感した。
学校関係者評価委員会の評価		ホームページの充実(本校の目標、日々の学習・部活動の様子等が伝わる内容にすること)、地域の中学校との交流、ボランティア活動への参加、地域の回覧板への資料提供等が理解を得る方策となる。				
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策		生徒が主となって地域と連携した活動や情報発信する機会を増やし、それらを推進する校務分掌を明確にする。報道機関へ積極的に情報提供し、生徒の活動を広く認めてもらえる機会を設ける。				

5 「教職員の多忙化改善に向けた取組方針」を踏まえ、教職員の時間外勤務縮減に向けて勤務時間を適正に管理し、また、ワークライフバランスを意識した業務改善につながる学校マネジメントを推進していく。	① ワークライフバランスを常に意識し、校務の効率化に向けて具体的な取組を実践する。	教頭	具体的な取組を実践し、時間外勤務が減少した教職員の割合が A 80%以上 B 60%以上 C 40%以上 D 40%未満	教職員による後期学校評価アンケートで肯定的評価 65.4% (66.1%) →評価【B】(B) コロナ禍で臨時休校の日があったが、教職員が各自勤務時間を適切に管理したことが良い結果につながった大きな要因である。それに加えて、昨年度に引き続き定期試験期間の生徒の下校時刻を早めたこと、年休を取りやすい環境が作れたこと、部活動外部指導員の採用、定時退校日のお知らせを定期的に行ったことが良かったと考えられる。さらに向上させるためデジタル採点システムの導入等、新たな策を講じていきたい。
学校関係者評価委員会の評価		生徒の自主的な活動を促すこと、業務改善を図ることで時間外勤務を減少させることができる。		
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策		教職員が絶対に必要な業務と、生徒の任せられる活動を見極め、生徒の主体性を引き出す取組を行う。		